

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価概要表

作成日：平成21年10月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2875201275		
法人名	ジャパンメディカル株式会社		
事業所名	白水すみれホーム		
所在地	(〒 651-2120) 兵庫県神戸市西和井取13-8		
	電話	078-976-1818	

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価確定日	平成21年10月10日

【情報提供票より】〔平成21年8月1日 事業所記入の同書面より要点を転記〕

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	3ユニット (利用定員…計27人)		
職員数	22人	(常勤19人)	(非常勤3人) / 常勤換算19.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	地上3階建て建物の 1階～3階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000円	その他の経費(月額)	17,000円
敷金の有・無	無し		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (500,000円)	(保証金有りの 場合) 保証金 償却の有・無	有り
食 材 料 費	朝食	315円	昼食 588円
	夕食	588円	おやつ 実費
	または、1日あたり		

(4) 利用者の概要 (平成21年8月1日 現在)

利用者人数	計25名 … (男性10名) (女性15名)		
要介護1	6名	要介護2	9名
要介護3	6名	要介護4	0名
要介護5	4名	要支援2	0名
年 齢	平均83歳 … (最低59歳) (最高102歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 社団 董会 名谷病院		
---------	-----------------	--	--

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR・山陽明石駅からバスで15分程度の新興住宅地の中にある。ホームの中では、常に「大家族」「共生」を意識したケアの実践がされており、笑い声の絶えない、家庭的な雰囲気を感じる。全体でのケアの他、各フロア毎でも工夫を凝らしたケア(楽しみごと・食事等)の実践もされている。また、利用者に男性が多い(現在10人)のも特徴の一つ。医療面は、系列法人の北須磨病院や名谷病院との連携(訪問診療・看護・受診・入院等)体制が整っており安心が出来る。ホーム前の掲示板には、地域の方々へに向けて、行事へのお誘いや介護に関する相談受付等の呼びかけポスターも見られ、日々の、ホーム理念の実践のための工夫を感じた。家族意見からも、安心で安全なサービスが提供されていることが伺われる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	①地域とのコミュニケーション(交流)の取組みの一つとして、「ご挨拶の実践」を掲げ続けている。②内部研修の充実を目指した(嚥下・身体拘束等研修実施)。また、各フロアでの会議時にもスキルチェックをしている。今後、コミュニケーションスキル向上を課題として捉えている。③鍵を掛けない実践が行なわれており、見守りによる安全確認がされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:第三者4)
	職員の意見を各フロアリーダーがまとめた後、最終的に管理者が疑問点などを調整し仕上げた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一回、定期的で開催されている。会議内容は家族に伝達が出来ている。民生委員や地域包括支援センターとの連携もとれており、検討課題や提案など活発な会議となっている。家族や利用者も必ず出席しており、開放された施設運営が出来ている。知見者や地域住民等も参加し、第三者委員としての機能も果たしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	利用者の日常生活については、定期的な「すみれ通信」以外に、手紙や個別の面談にて報告が行なわれている。今後、介護事業の取組みや、家族の関心が高い事項についての学習会などに取組んでいく予定である。1階にある「気付きBox」の活用を、利用者や家族にまで拡げる取組みを検討中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地域との相互交流を積極的に行なっており、ホームの前に設置された掲示板が地域への情報発信として有効に働いている。また、ボランティアの活用も積極的に行なわれており、地域行事への参加、民生委員との連携、近隣の住民の方々との交流など、地域との連携が定着しつつある。

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地元周辺の職員(明石や西区)が多い。利用者と職員は一体となって、家族としての付き合いが出来るように、支え合い、寄り添う環境を構築するよう努力している。地域密着型の意義と理念を職員に周知させ意識づけをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	感謝(ありがとうと言える)の気持ちと、笑顔を大切にした取組みがなされている。お互いの人格を認め合い、相互に尊敬できる環境をケアの目標とし、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域への情報提供や行事への参加を呼びかけをしている。「近所づきあいは挨拶から」という意識を持ち、地元のお祭りや盆踊りなどの行事にも参加している。建物の外部に掲示板を設置しており、介護に関する相談や見学の対応も掲げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価をきっかけに、課題への取組みが職員全体でなされている。また、機会あるごとに家族への報告も行なわれており、アンケートの結果からも家族の理解と認知症介護に関しての意識の高さが読み取ることができる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、積極的な意見交換がされており、制度変更の伝達や利用料金の見直しなども行なわれている。アンケートからも、家族への情報発信が充実していることが読み取れる。	○	更なるサービスの資質向上に向けての改善課題や困難に思っていること等について、会議を活用し、出席者に協力や助言を頂けるよう、会議テーマに組み込んでいくことに期待したい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉事務所のワーカー等とも意見交換や相談に応じてもらっており、市との連携は出来ている。また、西区のグループホーム連絡会も積極的に参加をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームの定期的な通信として「すみれ通信」が季節ごとに発行されている。家族への定期的な報告も行なわれており、年賀状の送付などもしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設け、提案用紙や意見箱などを設置しているが、中々意見は出てこないのが現状である。苦情が寄せられた場合の体制は出来ている。更に、家族への働きかけをしていくことを検討中(気付きBoxへの協力等)。また、家族会の際に、家族の方のみで話し合える時間も設け、その内容をフィードバックして頂けるようにも検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、各フロアでの固定性にしており、利用者への影響が少ないよう配慮がされている。この一年、数人の退職や復帰者があったが、影響は出ていない。職員採用に当たって、短期の採用はしない方針であり、夜勤も正職員とパートで対応している。	○	新人職員が入ってきた際は、訪問家族にも職員自らが、進んで自己紹介が出来るようになれば、家族の不安にも繋がらず、コミュニケーションも円滑になっていくと思います。紹介カードを作成する等も検討されては如何でしょう。


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が目的意識を持てるように(資格取得)、勤務時間など、ローテーションに配慮をしている。また、各フロアーには、有資格者・経験の豊富な職員を配置し、OJTでの新人職員研修を行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内の同業者による会議があり、相互見学等の取り組みを行っている。また、区内のグループホーム連絡会があり交流をしている。市内同業者間での交流会(学習会等)も出席をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の話を傾聴することからスタートし、安心感や信頼の獲得に力を入れている。入居の経緯では、病院、福祉事務所、居宅介護支援事業所など、幅広く対応が出来る。利用者とのコミュニケーションを通じた関係作りができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、家族としての係わりを意識した取り組みがされている。洗濯たみや、お客さんへのお茶いれなど、出来ることを役割として担ってもらっており、男性でも花の水遣りや片付けなど、できることに参加してもらっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人や家族から生活の履歴を聴き出し、その人なりの生活リズムを大切に環境を提供している。ホームでの生活に慣れてきたら、少しずつ他の人たちとの共同生活を意識した上での本人意向を把握していくようにしている。家族からのヒアリングも大切にして、参考にしている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各フロアにて、利用者の日常生活の記録が作成されており、定期的なフロア会議では、本人、家族等との意見交換がされている。日々の申し送りも適切に行なわれており、状況変化の把握が出来ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	普段から、利用者の生活に即した計画が立てられている。計画の見直しは、定期的な見直し以外にも必要に応じて、随時行なわれている。家族アンケート結果から見ても、家族への説明と同意の状況は良好であり、家族との信頼関係は保たれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列の事業所には、病院をはじめとした老人保健施設や、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、グループホームなどがあり、幅広く柔軟な対応が可能である。また、地域資源との連携が構築されており、インフォーマルな支援も期待できる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、各利用者及び家族からの希望を聴いており、提携医療機関とは24時間相談体制が取られている。他の病院利用も可能であり、系列病院での対応の場合は送迎もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針は出来ており、家族への説明も行なっている。多くの場合は、訪問看護との連携の中で、病院へ入院されるケースが一般的である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入所契約時にはプライバシー保護の書類を取り交わしている。職員についても、採用時に契約を交わしており、日常の研修においても、信頼関係に基づく傾聴を大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	男性利用者の中には、独自に好みの新聞を購読されている人も複数いる。毎朝、乾布摩擦する人がいたり、農業経験を活かし日常生活に組み込んでいたり等、個々の利用者の生活に合わせた対応がなされている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者からのリクエストの献立を聴き作ることもある(関西風お好み焼きやヤキソバ等)。料理の味付けなども、できるだけ一緒に取組んでいる。誕生日には外食で寿司を食べに行ったり、誕生会は、特別メニューを作り皆でお祝いをしている。お祝い会では、ビールを飲まれる方にはお出ししている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回を基本としているが、入浴時間の希望や毎日の入浴を希望される方(2, 3階の一般浴槽で対応)には、柔軟に対応をしている。なお、1階の浴槽は、リフト入浴の対応も出来るようになっている。また、医療的に毎日の入浴が必要な方もおられ対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味や生活歴を踏まえた取り組みをしている。陶芸や墓参りの希望もあり、やりたいことのアンケートも取っている。農作業の時期や、肥料のやり方など、その人の得意な分野を活かせるよう心がけた対応がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聴きながら、外出や散歩への支援をしている。近くの公園などへ車椅子で出かけるとき、利用者同士で車椅子を押してもらったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には玄関等の施錠はしておらず、見守りや訪室などで安全面の確認をしている。夜間は、2時間ごとの巡回をしている。夜間は安全上、玄関は施錠している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルは各フロア毎に設置されており、消防訓練も年に2回行われている。緊急時の事故対応の訓練は行なわれていない。	○	今後、地域との連携が課題となっており、色々な形で取り組みを働きかけていく予定であるとのこと。是非、積極的な取り組みに期待をしたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や水分摂取量については、個々の記録でチェックされている。便秘気味の利用者の方は、主治医と相談をしながら対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはベンチや花を設置し、気軽に出入りできる雰囲気作りをしている。利用者の作品や、飾り物や金魚など、居心地の良い空間作りに配慮している。各フロアによって、利用者の状況が違い、安全面にも配慮しながら、展示物や飾り付けをして、楽しんでもらっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の形も一律ではなく、また、出入り口の位置も違うため、個室性が感じられる。ただ、どうしても男性の居室は、飾り付けが余りないため、殺風景な印象がするが、女性の部屋は、馴染みの品物などが置かれ、明るい雰囲気が感じられる。		

※  は、重点項目。